

〒 622-0214

京丹波町蒲生蒲生野 353-3

TEL.090-9091-8970


E-mail 1770masahiro@gmail.com



やまざき まさひろ 山崎 真宏

3月議会（令和5年第1回定例会）は、3月2日（木）から3月22日（水）までの21日間開かれ、11人の議員が一般質問を行いました。山崎 まさひろ 議員活動の一環として、一般質問の一部を報告させていただきます。

この3月議会は、同意案件2件、諮問2件、議案44件、発委3件、及び、令和4年度の補正予算と多くの審議がありました。中でも令和5年度の一般会計当初予算について一部納得がいかなない点がある事も、皆さんに訴えておきます。



ダメだ、人がいなくなる

山崎真宏 世界では、人口が増加している中、日本においては人口が減少しており、日本の国自体の存続が危ぶまれるのではないかと懸念するほどの状況である。本町においても、住民記録人口集計表を見た場合、この10年間で、約3,200人減少している。平均すれば毎年約320人減少しており、毎月26人から27人減っている計算になります。昨年末のデータでは、13,005人であるが、10年後は1万人を切ると思定せざるを得ない状況であります。若い世代が増えなければ、町の存続に係るのではないのでしょうか。

山崎真宏 『きょうと府民だより』の本年2月号の特集の中で、連携で生み出す、町の元気！学生の力×地域の力、大学&学生と地域との連携プロジェクトの一つとして、本町も「子どもたちとの交流で、地域の子育てを支援」として、京都教育大学との取り組みが紹介されており、このような取り組みは、どこに行っていくべきと考えます。

山崎真宏 地方税法の規定する範囲内で実施をしております。また、独自の乗せ減免を行う考えはございません。

町民の力と知恵の結集を

山崎真宏 地方税法の規定する範囲内で実施をしております。また、独自の乗せ減免を行う考えはございません。

山崎真宏 『きょうと府民だより』の本年2月号の特集の中で、連携で生み出す、町の元気！学生の力×地域の力、大学&学生と地域との連携プロジェクトの一つとして、本町も「子どもたちとの交流で、地域の子育てを支援」として、京都教育大学との取り組みが紹介されており、このような取り組みは、どこに行っていくべきと考えます。

山崎真宏 『きょうと府民だより』の本年2月号の特集の中で、連携で生み出す、町の元気！学生の力×地域の力、大学&学生と地域との連携プロジェクトの一つとして、本町も「子どもたちとの交流で、地域の子育てを支援」として、京都教育大学との取り組みが紹介されており、このような取り組みは、どこに行っていくべきと考えます。

山崎真宏 『きょうと府民だより』の本年2月号の特集の中で、連携で生み出す、町の元気！学生の力×地域の力、大学&学生と地域との連携プロジェクトの一つとして、本町も「子どもたちとの交流で、地域の子育てを支援」として、京都教育大学との取り組みが紹介されており、このような取り組みは、どこに行っていくべきと考えます。

山崎真宏 『きょうと府民だより』の本年2月号の特集の中で、連携で生み出す、町の元気！学生の力×地域の力、大学&学生と地域との連携プロジェクトの一つとして、本町も「子どもたちとの交流で、地域の子育てを支援」として、京都教育大学との取り組みが紹介されており、このような取り組みは、どこに行っていくべきと考えます。

山崎真宏 『きょうと府民だより』の本年2月号の特集の中で、連携で生み出す、町の元気！学生の力×地域の力、大学&学生と地域との連携プロジェクトの一つとして、本町も「子どもたちとの交流で、地域の子育てを支援」として、京都教育大学との取り組みが紹介されており、このような取り組みは、どこに行っていくべきと考えます。

山崎真宏 『きょうと府民だより』の本年2月号の特集の中で、連携で生み出す、町の元気！学生の力×地域の力、大学&学生と地域との連携プロジェクトの一つとして、本町も「子どもたちとの交流で、地域の子育てを支援」として、京都教育大学との取り組みが紹介されており、このような取り組みは、どこに行っていくべきと考えます。

山崎真宏 『きょうと府民だより』の本年2月号の特集の中で、連携で生み出す、町の元気！学生の力×地域の力、大学&学生と地域との連携プロジェクトの一つとして、本町も「子どもたちとの交流で、地域の子育てを支援」として、京都教育大学との取り組みが紹介されており、このような取り組みは、どこに行っていくべきと考えます。

山崎真宏 『きょうと府民だより』の本年2月号の特集の中で、連携で生み出す、町の元気！学生の力×地域の力、大学&学生と地域との連携プロジェクトの一つとして、本町も「子どもたちとの交流で、地域の子育てを支援」として、京都教育大学との取り組みが紹介されており、このような取り組みは、どこに行っていくべきと考えます。

山崎真宏 『きょうと府民だより』の本年2月号の特集の中で、連携で生み出す、町の元気！学生の力×地域の力、大学&学生と地域との連携プロジェクトの一つとして、本町も「子どもたちとの交流で、地域の子育てを支援」として、京都教育大学との取り組みが紹介されており、このような取り組みは、どこに行っていくべきと考えます。

山崎真宏 『きょうと府民だより』の本年2月号の特集の中で、連携で生み出す、町の元気！学生の力×地域の力、大学&学生と地域との連携プロジェクトの一つとして、本町も「子どもたちとの交流で、地域の子育てを支援」として、京都教育大学との取り組みが紹介されており、このような取り組みは、どこに行っていくべきと考えます。

山崎真宏 『きょうと府民だより』の本年2月号の特集の中で、連携で生み出す、町の元気！学生の力×地域の力、大学&学生と地域との連携プロジェクトの一つとして、本町も「子どもたちとの交流で、地域の子育てを支援」として、京都教育大学との取り組みが紹介されており、このような取り組みは、どこに行っていくべきと考えます。

山崎真宏 『きょうと府民だより』の本年2月号の特集の中で、連携で生み出す、町の元気！学生の力×地域の力、大学&学生と地域との連携プロジェクトの一つとして、本町も「子どもたちとの交流で、地域の子育てを支援」として、京都教育大学との取り組みが紹介されており、このような取り組みは、どこに行っていくべきと考えます。

山崎真宏 『きょうと府民だより』の本年2月号の特集の中で、連携で生み出す、町の元気！学生の力×地域の力、大学&学生と地域との連携プロジェクトの一つとして、本町も「子どもたちとの交流で、地域の子育てを支援」として、京都教育大学との取り組みが紹介されており、このような取り組みは、どこに行っていくべきと考えます。

山崎真宏 『きょうと府民だより』の本年2月号の特集の中で、連携で生み出す、町の元気！学生の力×地域の力、大学&学生と地域との連携プロジェクトの一つとして、本町も「子どもたちとの交流で、地域の子育てを支援」として、京都教育大学との取り組みが紹介されており、このような取り組みは、どこに行っていくべきと考えます。

山崎真宏 『きょうと府民だより』の本年2月号の特集の中で、連携で生み出す、町の元気！学生の力×地域の力、大学&学生と地域との連携プロジェクトの一つとして、本町も「子どもたちとの交流で、地域の子育てを支援」として、京都教育大学との取り組みが紹介されており、このような取り組みは、どこに行っていくべきと考えます。

山崎真宏 『きょうと府民だより』の本年2月号の特集の中で、連携で生み出す、町の元気！学生の力×地域の力、大学&学生と地域との連携プロジェクトの一つとして、本町も「子どもたちとの交流で、地域の子育てを支援」として、京都教育大学との取り組みが紹介されており、このような取り組みは、どこに行っていくべきと考えます。

山崎真宏 『きょうと府民だより』の本年2月号の特集の中で、連携で生み出す、町の元気！学生の力×地域の力、大学&学生と地域との連携プロジェクトの一つとして、本町も「子どもたちとの交流で、地域の子育てを支援」として、京都教育大学との取り組みが紹介されており、このような取り組みは、どこに行っていくべきと考えます。

山崎真宏 『きょうと府民だより』の本年2月号の特集の中で、連携で生み出す、町の元気！学生の力×地域の力、大学&学生と地域との連携プロジェクトの一つとして、本町も「子どもたちとの交流で、地域の子育てを支援」として、京都教育大学との取り組みが紹介されており、このような取り組みは、どこに行っていくべきと考えます。

山崎真宏 『きょうと府民だより』の本年2月号の特集の中で、連携で生み出す、町の元気！学生の力×地域の力、大学&学生と地域との連携プロジェクトの一つとして、本町も「子どもたちとの交流で、地域の子育てを支援」として、京都教育大学との取り組みが紹介されており、このような取り組みは、どこに行っていくべきと考えます。

山崎真宏 『きょうと府民だより』の本年2月号の特集の中で、連携で生み出す、町の元気！学生の力×地域の力、大学&学生と地域との連携プロジェクトの一つとして、本町も「子どもたちとの交流で、地域の子育てを支援」として、京都教育大学との取り組みが紹介されており、このような取り組みは、どこに行っていくべきと考えます。

山崎真宏 『きょうと府民だより』の本年2月号の特集の中で、連携で生み出す、町の元気！学生の力×地域の力、大学&学生と地域との連携プロジェクトの一つとして、本町も「子どもたちとの交流で、地域の子育てを支援」として、京都教育大学との取り組みが紹介されており、このような取り組みは、どこに行っていくべきと考えます。

山崎真宏 『きょうと府民だより』の本年2月号の特集の中で、連携で生み出す、町の元気！学生の力×地域の力、大学&学生と地域との連携プロジェクトの一つとして、本町も「子どもたちとの交流で、地域の子育てを支援」として、京都教育大学との取り組みが紹介されており、このような取り組みは、どこに行っていくべきと考えます。

山崎真宏 『きょうと府民だより』の本年2月号の特集の中で、連携で生み出す、町の元気！学生の力×地域の力、大学&学生と地域との連携プロジェクトの一つとして、本町も「子どもたちとの交流で、地域の子育てを支援」として、京都教育大学との取り組みが紹介されており、このような取り組みは、どこに行っていくべきと考えます。

山崎真宏 『きょうと府民だより』の本年2月号の特集の中で、連携で生み出す、町の元気！学生の力×地域の力、大学&学生と地域との連携プロジェクトの一つとして、本町も「子どもたちとの交流で、地域の子育てを支援」として、京都教育大学との取り組みが紹介されており、このような取り組みは、どこに行っていくべきと考えます。

山崎真宏 『きょうと府民だより』の本年2月号の特集の中で、連携で生み出す、町の元気！学生の力×地域の力、大学&学生と地域との連携プロジェクトの一つとして、本町も「子どもたちとの交流で、地域の子育てを支援」として、京都教育大学との取り組みが紹介されており、このような取り組みは、どこに行っていくべきと考えます。

教育長 現在、小学校、中学校、今指摘のように、町のことを題材にした探究的な学びを積極的に進めております。そうしたことでありますので、現在、中学生、高校生の学校外における学びの成果の発表の場として、例えばジュニア世代の学びと提案などを持っております。

これまでも、こうした小、中、高校生の学びの成果の発表の場として、京丹波町の文化祭あるいは人権講演会など、機会を捉えて実施をしてきた経過がございますが、この間、コロナの関係もございまして、中断をしている状況でございます。

今、ご提案がありました、町民の皆さんに向けての小、中、高校生の学びの発表の場として町民大学も含めて、今後検討していきたいと思っております。

山崎真宏 京丹波町創業支援ネットワークや京丹波町産産ネットワークの取組をされております。また、1月に発足した京丹波町イノベーションラボもありますが、町内で活躍されている例えば瑞穂地区保井谷でラディッシュの栽培に取り組んでおられるグループの皆さんと、丹波地区須知でお惣菜屋さんをされている料理研究家、この方はNHKのきょうの料理にも出演されて、多方面で活躍されている方です。このようなプロの方をもっと前面に出させていただいて、町政と町民の皆さんが連携して「食の町」をアピールする取組を行う考えはないか、お伺い致します。

山崎真宏 京丹波町創業支援ネットワークや京丹波町産産ネットワークの取組をされております。また、1月に発足した京丹波町イノベーションラボもありますが、町内で活躍されている例えば瑞穂地区保井谷でラディッシュの栽培に取り組んでおられるグループの皆さんと、丹波地区須知でお惣菜屋さんをされている料理研究家、この方はNHKのきょうの料理にも出演されて、多方面で活躍されている方です。このようなプロの方をもっと前面に出させていただいて、町政と町民の皆さんが連携して「食の町」をアピールする取組を行う考えはないか、お伺い致します。

山崎真宏 京丹波町創業支援ネットワークや京丹波町産産ネットワークの取組をされております。また、1月に発足した京丹波町イノベーションラボもありますが、町内で活躍されている例えば瑞穂地区保井谷でラディッシュの栽培に取り組んでおられるグループの皆さんと、丹波地区須知でお惣菜屋さんをされている料理研究家、この方はNHKのきょうの料理にも出演されて、多方面で活躍されている方です。このようなプロの方をもっと前面に出させていただいて、町政と町民の皆さんが連携して「食の町」をアピールする取組を行う考えはないか、お伺い致します。

山崎真宏 京丹波町創業支援ネットワークや京丹波町産産ネットワークの取組をされております。また、1月に発足した京丹波町イノベーションラボもありますが、町内で活躍されている例えば瑞穂地区保井谷でラディッシュの栽培に取り組んでおられるグループの皆さんと、丹波地区須知でお惣菜屋さんをされている料理研究家、この方はNHKのきょうの料理にも出演されて、多方面で活躍されている方です。このようなプロの方をもっと前面に出させていただいて、町政と町民の皆さんが連携して「食の町」をアピールする取組を行う考えはないか、お伺い致します。

山崎真宏 京丹波町創業支援ネットワークや京丹波町産産ネットワークの取組をされております。また、1月に発足した京丹波町イノベーションラボもありますが、町内で活躍されている例えば瑞穂地区保井谷でラディッシュの栽培に取り組んでおられるグループの皆さんと、丹波地区須知でお惣菜屋さんをされている料理研究家、この方はNHKのきょうの料理にも出演されて、多方面で活躍されている方です。このようなプロの方をもっと前面に出させていただいて、町政と町民の皆さんが連携して「食の町」をアピールする取組を行う考えはないか、お伺い致します。

ないでしょうか、本町は栗を前面にアピールをしており、栗の木の管理者を増やす、栽培者を増やす、そして移住にも繋げる、空き家対策にも繋がる方法として、例えば、名称はとにかく、「栗の木空き家バンク」制度を新たに設け、取り組む考えはないかお伺い致します。

課長 様々な理由によりまして、栽培管理が困難になった栗園は町内にも多くあるというように認識はしておられるわけですが、そういった中で、これから生産人口を確保していくためには、そういった栗園を活用するということは非常に重要なことと考えていると考えています。

まずは、しっかりと町内の状況把握というものをさせていただいて、そうした上で、今もございましたように、新規就農者の方、そして、また移住をされる方にうまくつなげていけるような取組を実施していきたいというふうに考えております。

町をもっとアピールして

山崎眞宏 一年前にも提案いたしておりますが、公用車を利用して、「食のまち京丹波町」や「教育と子育ての町」と書いたマグネットシートを貼り付けるなどにより、本町をアピールする取組を行う考えはないか。自分の職場、町に誇りをもって、アピールする事への取組みに躊躇する事は無いと思っております。この庁舎の駐車場にも、京都府とか南丹市などと書かれた車が止まっていると目に着きます。アピールする、コマースリアルするとは、いかに目に着かせられるかだと思います。昨年の3月に質問いたしました時の、町長の答弁は、前向きに考えていきたい、取組みみたいと思っております。このことでした、今ほどの様に考えたいのか、お伺い致します。

町長 以前にもこのことは提案いただいた。その対応に対する考え方はいささかも変わっておりません。公用車を、広告媒体として頻りに町内を走り回っているわけですから、これほど適した物はないだろうとは思っております。大変重要な事だろと思っております。課長 現在、商工観光課のプロモーション戦略室では、プロモーション戦略の策定に向けて準備を進めているという事がございます。

その中では、町の旗印となる新たなロゴデザインといったものですが、町の誇りとなるキャッチコピーですね、こういったものの作成も予定しているということでございます。

今後、プロモーション戦略アクションプランの実行に当たりまして、そうした統一したデザインですね、バラバラにならない統一したデザインや発信媒体でもってインナープロモーション、町内向けの宣伝ですね。インナープロモーションに取り組みたいと考えております。

その一環となる、議員がおっしゃる公用車の活用は有効な手段であると認識しておりますので、「提案いただいた取組の実施に向けて、引き続き前向きに取り組んでいきたいと考えております。」

学校で約束事として定めております目的は、一つには、一人一人の生徒が本来、目指すべき学校生活を現すると、そういうものであること。また、集団生活の上で、誰もが安心して学校生活を過ごせるようにすると、そういう趣旨で、内容的には町内3中学校ほぼ同じような中身になっております。学校では、規定だからといった画一的な指導に終始しないと、そういうことも確認をしております。大切なことは、生徒自身が約束事の趣旨をよく理解し、自らも参画し、学校生活が過ごせるようになることだろと思っております。町内の3中学校は、これまでも社会状況の変化に応じて、約束事を見直してきたという、そういう経過もございまして。最近の校則をめぐる社会的な関心の高まりも受け、生徒会の役員に立候補した生徒が、校則について考えようと、こんなことを訴える生徒も出てきております。そういう中でございまして、3中学校ともに生徒と教職員が対応しながら、学校のルールを見直す取組を進めることとしております。

山崎眞宏 子ども、若者は、将来を背負って立つ町の宝です。子ども、若者を守れず、町は守れないと思っております。みなさん、よく存じの、ダーウィンの名言の一つに、「生き残る種とは、最も強いものではない。最も知的な種でもない。最もよく適応したものである」それは、変化に、最もよく適応したものである。その様な「京丹波町」に、なる事を望みます。京丹波町をアピールし、人口減少を食い止める。移住・定住対策、及び町民の皆様のためになる政策を、提案し続ける取組に、力を注いでまいります事を、申し上げまして、私の一般質問を終わります。

3月議会で審議した令和5年度一般会計当初予算について予算委員会では賛成しましたが、一部賛成できない、納得がいかない箇所があり、本会議で反対するか、賛成・反対の表決に加わらず、退席するか、随分悩みました。最終の方法として賛成し、なお且つ賛成討論を行い、納得がいかない箇所について指摘する（クギを刺す）方法を取りました。「木を見て森を見ず」にならないように。

山崎眞宏 「子ども基本法」と、私は関連すると思えます事の一つに、中学校の校則があります。保護者の方から京丹波町の中学校は校則を何故見直さないのでしょうかと聞かれました。お子さんからの不満を聞かされたとの事です。子どもは一方的に押しつけられる事に反発すると思えます。大人だけで決めるのではなく、大人と子供（生徒）と一緒に議論して決めればいいのではないかと私は考えます。子ども基本法の概要で示している、基本理念6項目の内3番目と4番目に関連するのではないかと考えます。

山崎眞宏 子ども、若者は、将来を背負って立つ町の宝です。子ども、若者を守れず、町は守れないと思っております。みなさん、よく存じの、ダーウィンの名言の一つに、「生き残る種とは、最も強いものではない。最も知的な種でもない。最もよく適応したものである」それは、変化に、最もよく適応したものである。その様な「京丹波町」に、なる事を望みます。京丹波町をアピールし、人口減少を食い止める。移住・定住対策、及び町民の皆様のためになる政策を、提案し続ける取組に、力を注いでまいります事を、申し上げまして、私の一般質問を終わります。

3月議会で審議いたしました。議案第4号 京丹波町すこやか子育て支援金 条例の制定について、令和3年・4年の12月議会の一般質問で2回に渡り提案させて頂いており、理解され、実行して頂いたと感謝し、賛成討論を行いました。事業概要は定住対策、子育て支援の一環として、各段階の入学時の負担軽減を図るため、小学校入学時に5万円、中学校入学時に5万円、また、中学校卒業時にも5万円をそれぞれ支給する事としております。

3月議会で審議した令和5年度一般会計当初予算について予算委員会では賛成しましたが、一部賛成できない、納得がいかない箇所があり、本会議で反対するか、賛成・反対の表決に加わらず、退席するか、随分悩みました。最終の方法として賛成し、なお且つ賛成討論を行い、納得がいかない箇所について指摘する（クギを刺す）方法を取りました。「木を見て森を見ず」にならないように。

山崎眞宏 「子ども基本法」と、私は関連すると思えます事の一つに、中学校の校則があります。保護者の方から京丹波町の中学校は校則を何故見直さないのでしょうかと聞かれました。お子さんからの不満を聞かされたとの事です。子どもは一方的に押しつけられる事に反発すると思えます。大人だけで決めるのではなく、大人と子供（生徒）と一緒に議論して決めればいいのではないかと私は考えます。子ども基本法の概要で示している、基本理念6項目の内3番目と4番目に関連するのではないかと考えます。

山崎眞宏 子ども、若者は、将来を背負って立つ町の宝です。子ども、若者を守れず、町は守れないと思っております。みなさん、よく存じの、ダーウィンの名言の一つに、「生き残る種とは、最も強いものではない。最も知的な種でもない。最もよく適応したものである」それは、変化に、最もよく適応したものである。その様な「京丹波町」に、なる事を望みます。京丹波町をアピールし、人口減少を食い止める。移住・定住対策、及び町民の皆様のためになる政策を、提案し続ける取組に、力を注いでまいります事を、申し上げまして、私の一般質問を終わります。

3月議会で審議いたしました。議案第4号 京丹波町すこやか子育て支援金 条例の制定について、令和3年・4年の12月議会の一般質問で2回に渡り提案させて頂いており、理解され、実行して頂いたと感謝し、賛成討論を行いました。事業概要は定住対策、子育て支援の一環として、各段階の入学時の負担軽減を図るため、小学校入学時に5万円、中学校入学時に5万円、また、中学校卒業時にも5万円をそれぞれ支給する事としております。

3月議会で審議した令和5年度一般会計当初予算について予算委員会では賛成しましたが、一部賛成できない、納得がいかない箇所があり、本会議で反対するか、賛成・反対の表決に加わらず、退席するか、随分悩みました。最終の方法として賛成し、なお且つ賛成討論を行い、納得がいかない箇所について指摘する（クギを刺す）方法を取りました。「木を見て森を見ず」にならないように。